

広島市立美鈴が丘高等学校 令和2年度 学校経営計画

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進取の気性に富み、自己の向上に努める生徒を育成する。 ・互いの人権を尊重しあう、思いやりの心を持った豊かな人間性を培う。 ・人として「自覚と責任」のある生き方ができる節度ある生徒を育成する。

<p>目指す学校像（ビジョン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の確実な定着を図り、個に応じた進路実現が達成できる学校 ・生徒の基本的な生活習慣が確立した規律ある学校 ・調和のとれた人格を育成する学校 ・保護者や地域から信頼される開かれた学校
--

時期	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準	
				努力指標	成果指標
学力の向上	協同学習を基軸として主体的に学ぶ生徒を育成するための授業法を研究し全体で共有することによって、個々の教員の授業力を向上させる。	協同学習の理論と様々な手法・実践例を学び、個々の授業での実践を通じて、より教育的効果の高い授業法を身につける。 学力向上推進委員会	適切な内容の研修会を複数回実施するとともに、様々な情報提供を通じて個々の授業における協同学習の実践を促す。	4 協同学習を主題とした研修会を実施し、情報提供を15回以上行った。	4 教員アンケートにおける協同学習の実践状況に係る項目で、肯定的回答が80%以上であった。
				3 協同学習を主題とした研修会を実施し、情報提供を10回以上行った。	3 教員アンケートにおける協同学習の実践状況に係る項目で、肯定的回答が65%以上であった。
				2 協同学習を主題とした研修会を実施し、情報提供を5回以上行った。	2 教員アンケートにおける協同学習の実践状況に係る項目で、肯定的回答が50%以上であった。
学力の向上	高い学力と幅広い教養を育成するカリキュラム・マネジメントの確立と「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業を実践し、生徒の意欲向上に資する評価方法を研究・実践する。授業や定期考査の改善に向けて研究・実践する。 教務部	全教員が、授業の最初に「本時の目標やめあて」を設定し、授業の最後に「本時のふりかえり」を設定し、実践する。 授業や定期考査において、新課程をふまえて図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する新傾向の問題を取り扱ったり、出題する。	4 「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の90%以上であった。	4 「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」を設定し、授業で実践した教員の割合が全体の90%以上であった。
				3 「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の70%以上であった。	3 「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」を設定し、授業で実践した教員の割合が全体の70%以上であった。
				2 「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の50%以上であった。	2 「目標」の設定およびルーブリック評価表等を利用した「ふりかえり」を設定し、授業で実践した教員の割合が全体の50%以上であった。
学力の向上	生徒一人ひとりが志を高く持ち、目標とする進路を実現する計画的な進路指導態勢を確立する。	全ての生徒が第一志望とする進路に最後まで挑戦することができる進路指導を行う。 3年生において、4月当初の第一志望校を受験するために、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等を考慮させ、第一志望校に出願できるように指導する。 3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が70%以上であった。	1・2年生において、模試の事前指導・事後指導を徹底し、模試を短期の学習目標とした取組を定着させる。 1 全員受験の模試で、事前指導と解き直しの配付、答案返却後の復習の指導の実施状況が100%であった。 3 全員受験の模試で、事前指導と解き直しの配付、答案返却後の復習の指導の実施状況が80%以上であった。 2 全員受験の模試で、事前指導と解き直しの配付、答案返却後の復習の指導の実施状況が60%以上であった。 1 全員受験の模試で、事前指導と解き直しの配付、答案返却後の復習の指導の実施状況が60%未満であった。	4 3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が70%以上であった。	4 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の50%以上であった。
				3 3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が60%以上であった。	3 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の40%以上であった。
				2 3年生9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が50%以上であった。	2 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の30%以上であった。
学力の向上	系統的な探究活動を研究・実践することにより、主体的に学び、思考・判断し、課題を解決しようとする生徒を育成する。	自ら課題を設定し主体的に学ぶ生徒を育成するため、「総合的な探究(学習)の時間」の学年全体での指導体制を構築する。 教育研究部	教育研究部が中心となって、毎時間の「総合的な探究(学習)の時間」における副教材の活用法や指導資料を作成する。指導の具体については、学年会および担任副担任の連絡調整によって周知徹底を図る。	4 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の100%だった。	4 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が95%以上であった。
				3 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の80%以上だった。	3 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が85%以上であった。
				2 教育研究部による指導資料の提供のうち、1週間以上前に提案することができたのが全時間中の60%以上だった。	2 総合的な学習・探究の時間における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が75%以上であった。
豊かな心の育成	基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。互いを尊重しあい協力して目標を達成する集団を形成する。 1年	授業・学校行事など学校生活において、学校のルールに従って行動し、互いに支えあう意識を持った集団を育成する。学習時間調査を利用するなどして、学習習慣の定着を図る。	1 1か月当たりの無遅刻の生徒が70%以上であった。 3 1か月当たりの無遅刻の生徒が60%以上であった。 2 1か月当たりの無遅刻の生徒が50%以上であった。 1 1か月当たりの無遅刻の生徒が50%未満であった。	4 1か月当たりの無遅刻の生徒が70%以上であった。	4 週当たりの平均学習時間が15時間以上の生徒が60%以上であった。
				3 1か月当たりの無遅刻の生徒が60%以上であった。	3 週当たりの平均学習時間が15時間以上の生徒が50%以上であった。
				2 1か月当たりの無遅刻の生徒が50%以上であった。	2 週当たりの平均学習時間が15時間以上の生徒が40%以上であった。
豊かな心の育成	様々な進路希望を持つ生徒同士が互いの異なる進路選択を理解・尊重し、その実現に向けて切磋琢磨し、互いに高め合える学年を育成する。 2年	「探究」の時間やLHRおよび面談などを通じ、自らの進路を自らが切り拓く意識を高める。	10月実施アンケートにおいて、「自分の進路希望を決めるための具体的な行動をとったことのある」生徒が70%以上であった。 3 10月実施アンケートにおいて、「自分の進路希望を決めるための具体的な行動をとったことのある」生徒が60%以上であった。 2 10月実施アンケートにおいて、「自分の進路希望を決めるための具体的な行動をとったことのある」生徒が50%以上であった。 1 10月実施アンケートにおいて、「自分の進路希望を決めるための具体的な行動をとったことのある」生徒が50%未満であった。	4 年度末に自分の進路希望が具体的に決まっている生徒が70%以上であった。	4 年度末に自分の進路希望が具体的に決まっている生徒が70%以上であった。
				3 年度末に自分の進路希望が具体的に決まっている生徒が60%以上であった。	3 年度末に自分の進路希望が具体的に決まっている生徒が50%以上であった。
				2 年度末に自分の進路希望が具体的に決まっている生徒が50%未満であった。	2 年度末に自分の進路希望が具体的に決まっている生徒が50%未満であった。
豊かな心の育成	学年の豊かな人間関係の中でお互いを高め合いながら、全ての生徒が第一志望とする進路に最後まで挑戦することができるよう自主性の喚起と支援を行う。 3年	面談や学校生活アンケートの活用、保護者との連携を図りながら生徒一人ひとりに向き合う。また、他者を尊重し最後まで学習に取り組む雰囲気を持った集団を育成する。	4 クラス全員に対する面談を5回以上行った。 3 クラス全員に対する面談を4回行った。 2 クラス全員に対する面談を3回行った。 1 クラス全員に対する面談を行った回数が2回以下であった。	4 欠席30日以上で生徒が5人未満であった。	4 欠席30日以上で生徒が5人以上7人未満であった。
				3 欠席30日以上で生徒が7人以上9人未満であった。	3 欠席30日以上で生徒が7人以上9人未満であった。
				2 欠席30日以上で生徒が9人以上11人未満であった。	2 欠席30日以上で生徒が9人以上11人未満であった。
いじめ防止	「いじめ防止基本方針」に基づきいじめを防止する。	いじめの防止、早期発見に努める。いじめに対して適切な措置を行う。 生活環境部	学年会との連携を密にして日頃から生徒が示す変化やシグナルを見逃さない態勢づくりにつとめる。教職員全体で情報と取り組みの姿勢を共有し、必要に応じて関係機関・専門機関と連携する。	4 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付を3回以上行った。	4 遅刻者数が前年度より20%以上減少した。
				3 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付を2回以上行った。	3 遅刻者数が前年度より10%以上減少した。
				2 遅刻指導について、全ての該当生徒の保護者へ協力を依頼する文書の送付を1回以上行った。	2 遅刻者数が前年度とほぼ同じであった。
開かれた学校づくり(信頼される学校づくり)	地域と連携した活動を通して、ボランティア精神に富み、社会に貢献できる人材を育成する。 生徒部	行事や部活動、ボランティア活動を通して生徒の自主性の向上に努める。	部活動やボランティア活動に積極的に参加させ、生きる力を養い、自己効力感を育てる。行事に前向きに取り組める生徒を育成する。	4 部活動やボランティア活動への参加を20回以上呼びかけ、各行事や大会等への支援を行った。	4 のべ500人以上の生徒がボランティア活動に参加し、80%以上の生徒が部活動に参加した。
				3 部活動やボランティア活動への参加を10回以上呼びかけ、活動環境を整えた。	3 のべ400以上の生徒がボランティア活動に参加し、70%以上の生徒が部活動に参加した。
				2 部活動やボランティア活動への参加を数回呼びかけた。	2 のべ200人以上の生徒がボランティア活動に参加し、60%以上の生徒が部活動に参加した。
開かれた学校づくり(信頼される学校づくり)	清掃活動を充実させる。 生活環境部	美化委員会の活動を強化する。日々の清掃活動に加え毎月大掃除の日を設ける。大掃除の日には校内美化の徹底を図るとともに校内安全点検を実施し、校内の安全確保と環境保全につとめる。	1 美化委員会を年5回未満しか設定できなかった。大掃除と安全点検が80%未満しか実施されなかった。 4 美化委員会を年10回以上設定し、大掃除と安全点検が100%実施された。 3 美化委員会を年8回以上設定し、大掃除と安全点検が90%以上実施された。 2 美化委員会を年5回以上設定し、大掃除と安全点検が80%以上実施された。	4 大掃除チェック表において、95%以上の場所・項目で「よい」が付き、安全点検はすべて実施された。	4 大掃除チェック表において、95%以上の場所・項目で「よい」が付き、安全点検は90%以上実施された。
				3 大掃除チェック表において、95%以上の場所・項目で「よい」が付き、安全点検は80%以上実施された。	3 大掃除チェック表において、70%以上の場所・項目で「よい」が付き、安全点検は80%未満しか実施されなかった。
				2 大掃除チェック表において、70%以上の場所・項目で「よい」が付き、安全点検は80%未満しか実施されなかった。	2 大掃除チェック表において、「よい」が付き、安全点検は80%未満しか実施されなかった。
開かれた学校づくり(信頼される学校づくり)	学校経営の方針や学校の特色を学校案内やホームページなどを通じて広報活動に努める。 総務部	ホームページの迅速且つ積極的な更新に努める。	1 学年会や教育相談会議などで各学年、生徒の情報交換の場を持った回数15回未満であった。 4 ホームページの更新が年間170回以上であった。 3 ホームページの更新が年間120回以上であった。 2 ホームページの更新が年間70回以上であった。 1 ホームページの更新が年間70回未満であった。	4 教職員あるいは保護者からの生活環境部関係部署への相談回数が40回以上あった。	4 ホームページの閲覧回数が年間70000回以上であった。
				3 教職員あるいは保護者からの生活環境部関係部署への相談回数が35回以上あった。	3 ホームページの閲覧回数が年間50000回以上であった。
				2 教職員あるいは保護者からの生活環境部関係部署への相談回数が30回以上あった。	2 ホームページの閲覧回数が年間30000回以上であった。
開かれた学校づくり(信頼される学校づくり)	教職員が、心身ともに健康な状態で子供と向き合う。 管理職	業務改善を進め、全教職員の年間月平均の勤務時間外の在職時間を45時間以下にする。	4 定時退校日の実施率が80%以上であった。 3 定時退校日の実施率が60%以上であった。 2 定時退校日の実施率が40%以上であった。 1 定時退校日の実施率が40%未満であった。	4 年間月平均の勤務時間外の在職時間が45時間以下の教職員の割合が80%以上であった。	4 年間月平均の勤務時間外の在職時間が45時間以下の教職員の割合が80%以上であった。
				3 年間月平均の勤務時間外の在職時間が45時間以下の教職員の割合が60%以上であった。	3 年間月平均の勤務時間外の在職時間が45時間以下の教職員の割合が60%以上であった。
				2 年間月平均の勤務時間外の在職時間が45時間以下の教職員の割合が40%以上であった。	2 年間月平均の勤務時間外の在職時間が45時間以下の教職員の割合が40%以上であった。